

# 連載企画 SDGs取り組み事例紹介

## 株式会社山田組

### ～SDGsで地域の経済が発展する事業作りを～



#### 【会社概要】

1916年（大正5年）北海道にて創業。一貫して官公庁発注の社会資本整備事業を担い続け、空港、道路、河川の工事や、新幹線のトンネル工事の他、北海道や札幌市などの自治体による公共工事にも注力する総合建設業である。

SDGsの達成に向けた取り組みテーマとしては、「安心して働ける職場づくり」「環境への配慮」「誠実・信頼・貢献」の3つを掲げて取り組んでいる。

#### 【話し手】

(株)山田組 代表取締役社長 山田健一郎

#### ——SDGsの取り組みをはじめたきっかけについてお聞かせ下さい。

建設会社とは基本的にエッセンシャルワーカー<sup>\*</sup>であるという矜持を常に持ち、日々の業務に取り組んでいます。

<sup>\*</sup>）社会インフラ維持に必要不可欠な労働者

以前より参画していた道路の美化・安全などボランティア活動を進めている中で、自治体も推奨するSDGsを知る機会がありました。そして、当社にもこの開発目標を取り込み、営利目的ではない視点による活動も積極的に行なえば、社員にも社会に貢献している会社であることをもっと強く認識してくれるのではないかと考えました。

当社ではSDGsについて特にコンサルタント会社などに相談せずに社内で試行錯誤しながら皆で取り組んでいます。また現在、ISO14001の認証取得を目指しており、どうしても環境問題に重点を置く傾向にはなりますが、社員のSDGsへの意識はかなり定着したと感じています。

#### ——管路更生を通じてSDGsに貢献している事について教えてください。

管路更生工法は、下水道管の老朽化対策としてSDGsに貢献している工法です。

開削工事では掘削時に土砂やアスファルトコンクリートの塊などの産業廃棄物が発生しますが、非開削の管路更生工法ではほとんど発生しません。

また、掘削工事や運搬作業、アスファルト舗設などの重機によるCO<sub>2</sub>排出量や騒音・振動も大幅に低減できます。さらに、工事期間が短くなる事で、地域住民への環境負荷が軽減され、早期の交通解除も可能となります。なお、当社では、環境への負荷を



考慮して、光硬化工法で施工しています。施工時間が短くCO<sub>2</sub>発生量の低減につながるなど施工性に優れ、性能的にも塩ビ管と同等の水力性能を有し、レベル2地震動でも流下機能を確保できる耐震性を持つなど高い性能を持っています。

施工にあたっては、特に音の大きい発電機やコンプレッサーを載せた車両には遮音シートで囲み防音対策を行なっています。また、臭気対策としては、マンホールに脱臭装置を設置します。

遮音シートによる防音対策



脱臭装置による臭気対策



交通規制時には、ソーラーパネルを使用した規制標識を設置し、夜間作業時には、規制材の電源に充

電式のバッテリーを使用することで、CO<sub>2</sub>の削減とともに騒音対策にも取り組んでいます。



充電式バッテリーを使用した交通規制材

### —SDGsの取り組み全般について概説して下さい。

SDGsが採択される前からになりますが、2008年に洞爺湖サミットに向けて札幌市と協定を結んで、ゴミ拾いや駐輪場の整理、貼り紙・立看板の除去、

冬季の歩道への砂まき等いわゆる「アダプト・プログラム」に参画して以来、17年間活動を続けておりまして、直接、地域住民の方々と触れ合うことが出来る貴重な機会となっています。この活動は今後とも大切にしていきたいと思っています。

市内のゴミ拾い



冬季の歩道への砂まき



さらに、札幌市中央区災害防止協会<sup>\*)</sup>に所属し、小学校周辺の清掃、防災訓練、川の清掃活動を行っており、これらの活動は「①住み続けられるまちづ

くりを」に寄与していると考えています。

<sup>\*)</sup> 札幌市、同市中央区、他関係機関との連携を保ち、地域発展に協力し会員相互の親睦を図る目的で1981年に設立された団体



小学校周辺の  
清掃活動



河川の  
清掃活動

また、北海道庁が推進する「ゼロカーボン・チャレンジ」\*)を宣誓して、その取り組み項目に基づいて様々なCO<sub>2</sub>削減に挑戦しています。

\*) 2020年3月に北海道知事が表明した、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン北海道」の実現に資する取組を宣誓し、実践する事業者のことで、温室効果ガス排出量の削減に向けた14の項目から取組を選択し、実践します。

- 北海道地球温暖化対策推進計画で掲げる道の目標の達成に貢献する取り組みの率先実施
- 温室効果ガス排出量の算定と道への報告
- 工場、事業場における省エネ型生産機械等の導入

ソーラー・トイレの  
設置



EV車の  
導入

当社では、空港関係の土木工事も多く請け負うため、2023年に「みなとSDGsパートナー」に登録されました。これは港湾関係企業等によるSDGs達成

に資する取り組みの普及促進を支援し、日本の港湾および港湾関係産業の魅力向上と将来にわたる持続的な発展に貢献することを目的として、国土交通省港湾局で創設されたものです。

空港関係工事の  
様子



みなとSDGsパートナー  
ロゴマーク



それから特に「⑧働きがいも経済成長も」に関連しますが、当社では、安心して働ける職場づくりを掲げて、社員育成に力を入れています。女性社員が配属されている現場作業所には女性専用の休憩所やトイレを設置し、メンター制度も敷いて悩み事がな

いか定期的な面談を行なっています。

また、次世代人材の確保に向けて、インターンシップの受け入れを積極的に行ない、外国人職員も1名在籍して施工現場で活躍するなど多様性にも取り組んでいます。



メンター制度



女性専用休憩所

### ——貴社の目指すSDGs2030年はどんな姿ですか？

大きく言えば、SDGsに取り組むことで地域の経済がより良く発展する姿が素晴らしいと思っています。当社も社会貢献をしつつ、同時に事業的にもプラスになればベストだと考えています。

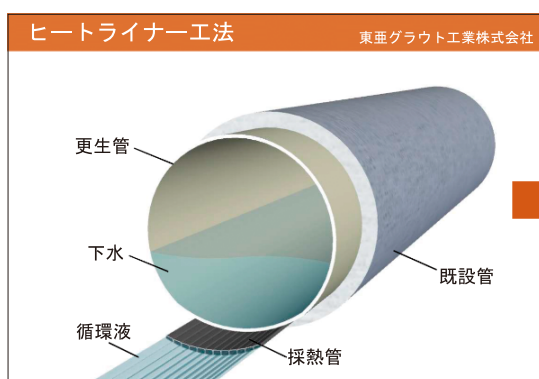
例えば、下水熱を利用した路面融雪です。

下水の水温は一年を通して比較的安定しており、大気のと比べて夏は低く、冬は高い特徴を有しています。このため、下水熱を融雪時に利用することによって、大幅な省エネとCO<sub>2</sub>排出量の削減を図る

ことができるというものです。

この下水からの採熱方式には、「ヒートライナー工法」という管路更生と同時に採熱管を組み込む工法もあり、これらの北海道での融雪効果やコストなどを検証するため、「さっぽろ下水熱利用研究会」を設立し、北海道科学大学の協力をいただき実証実験を行なっております。この研究会には当社も構成員として参画しております。

雪の多い北海道で、このような下水道管からの下水熱を利用した路面融雪が進めば、大きな社会貢献になるのではないかと考えています。



ヒートライナー工法の構造



同工法により融雪された様子

